

【③会議結果】

会議結果（要旨）

| | |
|---------------|---|
| 会 議 名 | 令和2年度第1回音更町総合教育会議 |
| 開 催 日 時 | 令和3年2月25日（木）午前1時25分～午後3時20分 |
| 開 催 場 所 | 音更町役場庁舎3階309・310会議室 |
| 委 員 出 席 者 | 音更町長小野信次、音更町教育委員会教育長福地隆、教育長職務代理者 田中義博、教育委員石川秀朗、教育委員種川健、教育委員川井麗子 |
| 事 務 局 出 席 者 | 企画財政部長渡辺仁、教育部長八鍬政幸、学校教育課長藤原靖博、生涯 学習課長宮田明子、文化センター館長佐藤直樹、図書館長川瀬庸一、ス ポーツ課長加藤義徳、学校教育課総務係長定村剛志、学校教育課学校教 育係長櫻井智和、学校教育係主任横井大祐 |
| 傍 聴 者 数 | 無し |
| 議 題 ・ 諮 問 内 容 | 1 会議録署名者の指名 2 会期の決定 3 協議事項（1） 教育に関する諸条件の整備について 協議事項（2） その他 |
| 会 議 資 料 | |
| 会 議 結 果 | 別紙会議録のとおり |
| （出された主な意見等） | |
| お 問 合 せ 先 | 教育委員会学校教育課総務係 |

【③会議結果】

令和2年度第1回音更町総合教育会議会議録

と き 令和3年2月25日

ところ 音更町役場庁舎3階309・310会議室

出席者 小野町長、福地教育長、田中教育長職務代理者、石川委員、種川委員、川井委員
事務局 渡辺企画財政部長、八鍬教育部長、藤原学校教育課長、宮田生涯学習課長、佐藤文化センター館長、川瀬図書館長、加藤スポーツ課長、定村総務係長、櫻井学校教育係長、横井学校教育係主任

傍聴者数 0人

開会（13時25分）

令和2年度 第1回音更町総合教育会議

（教育部長）

ただいまから、令和2年度第1回音更町総合教育会議を始めたいと思います。開会に先立ちまして、小野町長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

（町長）

今日は総合教育会議を開会ということでございまして、始める前に一言ご挨拶を申し上げます。大変お忙しい中、こうしてお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。総合教育会議は、町と教育委員会が、教育に関する課題や、将来のあるべき姿を共有し、十分な意思疎通を図りながら教育行政を推進するために、定期的を開催しているものであります。昨年来、新型コロナウイルス感染拡大により、各分野に大きな影響が出ておりますが、社会生活においては、接触を避けるため、在宅勤務やサテライトオフィスなどのICTの活用によるテレワークが急速に普及するなど、その様様が大きく変わってきております。本日の会議のテーマであります「GIGAスクール構想」は、学校におけるICT環境を整備するために、令和元年12月に国が打ち出した構想で、当初、令和5年度までに段階的に児童生徒向けの1人1台端末と高速通信ネットワークの整備を行うこととしておりましたが、このような事態を受け、令和2年4月には、緊急経済対策として整備スケジュールを加速することとなりました。本町においても、昨年6月にタブレット購入費などの補正予算を計上し、令和2年度中に整備を行うこととしたところであります。詳細については、後に説明がありますが、構想の実現には、機器の整備だけではなく、デジタルコンテンツの活用や、指導体制の充実など、運用面の整備が不可欠であります。本日は、学校での活用の様子、模擬授業など、教育現場からの目線で活発な意見交換ができるものと期待をしております。この会議が、音更町の今後の教育行政に意義あるものとなりますように、期待をいたしましてご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（教育部長）

【③会議結果】

ありがとうございました。ただいまから、令和2年度第1回音更町総合教育会議を開会します。これ以降の進行は、町長にお願いいたします。

(町長)

それでは、議事に入らせていただきます。はじめに、会議録署名者の指名を行います。本日の会議録署名者は、石川委員を指名いたします。続いて、会期の決定を議題といたします。会期は、本日の1日間にしたいと思います。ご異議ありませんか。

(各委員)

異議なし。

(町長)

異議なしと認めます。会議は、本日の1日間に決定いたしました。協議案第1号 教育に関する諸条件の整備についての件を議題といたします。議案にありますとおり、今回は「G I G Aスクール構想の状況と今後の展開について」をテーマに協議を行います。

はじめに概要説明を行い、その後、学校におけるタブレットの活用についての動画視聴、タブレットを用いた模擬授業、最後に意見交換という流れで進めたいと思います。まず、G I G Aスクール構想の概要について、事務局から説明をお願いします。藤原学校教育課長。

(学校教育課長)

それでは、私の方からG I G Aスクール構想の概要についてご説明させていただきます。お手元に配付の資料を併せてご覧ください。まず、1 G I G Aスクール構想に至る経緯についてご説明いたします。資料1ページをご覧ください。平成29年3月に告示されました新学習指導要領においては、情報活用能力が、言語能力及び問題発見・解決能力と同じく、学習の基盤となる資質・能力と位置付けられることとなり、各学校において、コンピュータやネットワークなど必要な環境を整え、これらを活用した学習活動の充実を図ることが明記されました。また、小学校においては、プログラミング教育が必修化されるなど、学習活動において積極的なICTの活用が想定されています。文部科学省では、新学習指導要領の実施を見据え2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針を取りまとめるとともに、これを踏まえ、教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画(2018～2022年度)を策定しました。この中では、学習者用コンピュータの整備を3クラスに1クラス分、指導者用コンピュータの整備を授業を担当する教師に1人に1台分、インターネット及び無線LANの整備を100パーセント、ICT支援員の配置を4校に1校などについて地方財政措置が講じられることとなりました。しかしながら、資料2ページにあります統計資料のとおり、教室の授業でデジタル機器の使用が低いことや、学校におけるICT環境の整備が進まない現状の中で、資料3ページにお進みいただき、国は令和元年6月に学校教育の情報化の推進に関する法律を制定し、経済財政運営と改革の基本方針2019や、統合イノベーション戦略2019、規制改革実施計画において、学校における1人1台のパソコン環境や高速ネットワーク環境の実現により、教育の情報化を推進することとしました。

資料4ページに進みまして、これらを受けて、令和元年12月に安心と成長の未来を拓く総合経済対策が閣議決定され、その中で、義務教育段階において令和5年度までに、全学年の児童生徒1人1人がそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指すこととされました。これがいわゆるG I G Aスクール構想と言われるものです。その手始めとして、国の令和元年

【③会議結果】

度補正予算においては、学校内における校内無線LANの整備の推進が予算化されました。

資料5ページに進みまして、1人1台端末の整備については、当初、地方財政措置分を含め令和2年度から令和5年度までの4年間で順次整備する予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言の発令により、学校が臨時休業を余儀なくされ、児童生徒の学びの保障が急務となったことから、令和2年4月に新型コロナウイルス感染症緊急経済対策が閣議決定され、資料6ページに進みまして、同時に閣議決定された、国の令和2年度補正予算において、端末の整備を前倒しし、令和2年度中に整備を行うこととされました。併せて、急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するための、GIGAスクールサポーターの配置や、緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備のため、通信環境が整っていない家庭への貸与を目的としたモバイルWi-Fiルータの整備や、学校からの遠隔学習機能の強化のための通信装置の整備などについても予算化がされたところです。

続きまして、2本町におけるGIGAスクール構想への取り組みの状況と課題についてご説明いたします。資料7ページをご覧ください。先に述べた、GIGAスクール構想に関して、本町においては、校内無線LANの整備を令和元年度補正予算において予算化し、令和2年度に各学校に無線LAN環境を整備するための工事を、今年度をもって閉校する南中音更小学校を除く16校で実施しているところです。既に、夏休みに工事を行った中学校5校及び小学校3校の8校については工事が完了し、無線LANが稼働しており、冬休みに工事を行った小学校8校についても工事が完了した学校から無線LANの稼働を開始しているところです。なお、全ての学校での稼働は3月上旬を予定しております。端末の整備につきましては、令和2年度の補正予算で予算化し、地方財政措置分も含めた4,300台（児童生徒3,900台、教職員400台）の導入を行いました。端末の納品に当たっては、台数が多数になることから、校内の無線LAN工事の状況に併せて、夏休み工事を行った8校及び南中音更小学校分を昨年9月末に、残りの8校分を本年1月末に納品を完了したところであります。端末は、その登載するOSをマイクロソフトのウィンドウズ、アップルのiOS及びグーグルのクロームOSから選択しなければならないこととされており、本町においては、馴染みは薄いものの、導入後の管理コストや、本体に記憶領域をもっておらず、クラウド上に全てのアプリケーションやデータを有することによるデータ管理のしやすさやセキュリティの高さ、他市町村での導入状況などを考慮し、クロームOSを登載するクロームブックを選択しました。児童生徒に渡している端末については、お手元にありますものと同じものになります。また、GIGAスクールサポーターについては、無線LAN設備や端末の設定及び管理、各学校における使用方法の研修などについて、知見を持つ事業者に委託を行い、端末導入時のサポートを行っていただいています。さらに、緊急時における家庭でのオンライン環境の整備については、400台分の購入費用を予算措置し、現時点でモバイルWi-Fiルータを200台導入し、通信環境が整っていない家庭への貸出しを行う予定です。教職員に対しての研修については、GIGAスクール構想に伴う、無線LANの整備や端末の導入が決定して以降、北海道教育委員会をはじめ、北海道教育研究所、十勝教育研修センター等において、様々な形で、運用や活用に関する研修会が企画されており、リモートでの開催など制限がある中ではありますが、積極的に参加をいただきました。また、臨時休業期間においても、リモートによる学習の可能性や、端末の授業での有効な活用方法について、各学校で校内研修を実施し、導入に向けた準備を進めていただきました。また、導入に当たっ

【③会議結果】

ては、端末の納品時にG I G Aスクールサポーターの受託事業者が、端末の設定と合わせ、教職員に使用方法について研修を行っております。また、グーグル社が、クロームブックを導入した自治体に対して無償で実施する、キックスタートプログラム研修会を2月15日から18日までの日程で実施いたしました。4日間で全ての小中学校から教職員100人あまりが参加し、クロームブック及びグーグル社が提供する教育機関向け支援ソリューション、グーグルフォーエデュケーションの学校現場での活用にあたっての使用方法及び活用例について、研修を行ったところです。今後は、この研修を受講した教職員が、各学校において活用の中心となっていくことを想定しております。

資料8ページへお進みください。G I G Aスクール構想において整備、導入した設備、備品等については、その運用にあたって、運用の方法やルール作り、学校における利活用に関する研究などを行っていかねばなりません。このため、音更町校長会及び教頭会、音更町教育研究所からICTの活用に造詣の深い先生方に、教育委員会担当職員、町情報防災課職員をメンバーとして、また、G I G Aスクールサポーターの受託会社の担当者をオブザーバーとして、音更町ICT教育推進チームを立ち上げました。推進チームの会議は、1、2週間おきに現在まで7回開催しているところであります。推進チームでの検討状況については、後ほどご紹介させていただきます。資料9ページにお進みいただき、また、音更町教育研究所においてもICT機器の活用に関して、ICT活用部会を立ち上げ、授業内での活用方法や、より実践的な使用方法、新学習指導要領に沿った運用方法などを研究しているところです。現在の課題といたしましては、ICT機器に関する学校間及び教職員個々のスキルの差をどのように埋めていくかというところであります。この後、実地で説明することになりますが、児童生徒の学びの保障はもちろんのこと、使い方によっては教職員の負担を大きく減らす可能性を秘めており、教職員の働き方改革への効果が期待できるものであるため、まずは教職員がICT機器の使い方に慣れていただくこと、そして、指導のツールとして使用するための意識改革が必要と考えています。本格的な運用は、令和3年度からとなりますが、新学習指導要領における情報活用能力の向上および、コロナ禍など緊急時における家庭での学びの保障に資するために、学校教育におけるICTの活用は不可欠なものと考えております。以上で、G I G Aスクール構想の概要についての説明を終わります。

(町長)

ただいま説明のありました件について、ご質問等ございませんか。田中教育長職務代理者。

(田中教育長職務代理者)

今までの経過を上手にまとめてますよね。前もっていただけると、もっと勉強になったなと思います。先ほど町長からお話のあった令和5年度までに1人1台端末というのが前倒しになって、幸か不幸かコロナの影響で準備ができたことは、大変良いことだと思っております。児童生徒より教職員のスキルが課題になってくると思うんですよ。勝毎に出ていたんですけど、講師を頼んで講習会をしましたという記事を読ませていただきました。100名ほどが研修を受けて、各学校に戻って先生たちに指導するということですけど、今回受講した方というのは、ある程度ICTに理解のある人だったんでしょうか。

(町長)

櫻井学校教育係長。

【③会議結果】

(学校教育係長)

今回、先ほどご説明しましたキックスタートプログラムに参加をいただいた先生方につきましては、ICTに詳しいかどうかではなくて、それぞれの学校から選んでいただいたわけですが、選んでいただくに当たっては、学校のほうにも、今後は受講していただいた先生が中心になってクロームブックの使い方の普及ですとか、そういったものの指導をしていただくということをご理解いただいた上で、受講者を決めてくださいというお願いをしております。中にはあまりICT機器に関して経験の少ない先生方もいらっしゃったんですけれども、私も講習を受けたんですが、かなりわかりやすい講習でして、先生方もその後持ち帰って、周りの先生に指導していただけるような内容であったかなと感じております。以上です。

(町長)

よろしいでしょうか。

(田中教育長職務代理者)

はい。先生が慣れるのに精一杯というのではなくて、講習を受けて使いこなすくらいになってもらわないと。先生も余裕がないのに、児童生徒に一生懸命教えるというのは大変だと思うので。こういう講習会はどんどん開催していくようにしたら良いのではないかなと思います。以上です。

(町長)

他にありませんか。他になければ、続きまして、学校における取組状況について、説明をお願いします。藤原学校教育課長。

(学校教育課長)

学校からの説明に先立ちまして、補足の説明をいたします。これ以降、下士幌小学校、館田校長先生の説明及び動画による授業の様子説明、模擬授業につきましては、お手元にありますクロームブックを用います。ここで、今回GIGAスクール構想に当たって導入いたしましたクロームブックについて簡単にご説明いたします。資料の10ページ以降にGIGAスクール構想及びグーグル社が提供する教育プログラム、グーグルフォーエデュケーションについての説明を掲載してございますのでご参照ください。クロームブックは、グーグルフォーエデュケーションを構成するものであり、クロームOSを登載したノートパソコン型タブレットです。特長としては、先ほども説明したとおり、全てのアプリケーションやデータをクラウド上で管理する関係上、内部にハードディスクがなく、構造がシンプルであり、衝撃に強く、起動などの動作が速いことです。本町において導入したクロームブックは、コンバーチブルタイプと呼ばれ、タッチパネルを搭載しているため、いわゆるノートパソコンとしてのみではなく、タブレットとしても使用できます。この後の説明については、いわゆるリモート授業のような形式で行います。使用するのは、ミートと呼ばれるビデオ通話アプリです。なお、通信の状態によりましては画像が途切れる場合がありますのでご了承くださいとともに、不具合がありましたら、お近くの事務局職員にご確認ください。それでは、学校における取組状況について、音更町ICT教育推進チームのリーダーであります、下士幌小学校の館田校長先生からご説明をいたします。館田校長先生よろしく申し上げます。

(下士幌小学校校長)

下士幌小学校校長の館田でございます。日頃より町内各校の教育活動の推進に対しましてご

【③会議結果】

理解・ご支援を賜りますことに心から感謝申し上げます。リモートでの参加になりますますがよろしく申し上げます。私の方からは、GIGAスクール構想に関し、学校における取組状況について説明させていただきます。先ほど、学校教育課長からの説明にもありましたとおり、本年度、各学校には児童生徒及び教職員に1人1台のタブレットが導入されました。学校教育におけるICT環境の充実は、これまでも必要といわれてきたところでもあります。GIGAスクール構想は、まさに今後の学校教育の方向性を位置付けるものではないかと考えております。しかしながら、今回のコロナ禍における端末導入は、学校にとっても、突然のことであり、期間のない中で、通信環境の整備をはじめ、端末の導入、設定、使用方法の研修など、まさに目まぐるしいものでありました。

本校においては、つい先日、校内LANの整備が終わり、設定作業が終了したところです。やっと子どもたちが端末を使うための準備ができたところで、これから子どもたちに使用方法などを教えていく段階になります。先行して導入された学校については、既に児童生徒、教職員とも使用を開始しており、その中での学校の取組及び今後の方向性について、何点かに分けて説明をいたします。まずは先ほどの説明にもありました、音更町ICT教育推進チームにおける検討状況です。

推進チームは、教育委員会からの説明のとおり、メンバーとして、私、館田のほか、教頭会から教頭2名、音更町教育研究所から小中各1名の研究所員の教諭、町長部局のICT担当として、情報防災課の職員1名、教育委員会の教育推進員2名及び担当職員若干名で構成されております。このほか、オブザーバーとしてGIGAスクールサポーターの受託会社の社員が随時参加しております。推進チームにおいては、まず、端末の導入に当たっての設定作業の実施について議論を行いました。端末の使用に当たっては、納入された端末の開梱作業はもとより、ネットワーク接続やアカウントの使用に関する設定などが必要になります。何よりアカウントのパスワードの設定・管理は、今後の使用に大きく関わってくることから、推進チームにおける初期段階での大きな議論となったところです。パスワードの設定に関しては、児童生徒の発達段階に応じた使い分けが必要ではないかとの意見が出ましたが、まずは先行導入された学校において実証授業を行い、この状況で判断することとしました。実証授業は、推進チームメンバーである教諭の勤務先である下音更小学校の協力を得て、小学校6年生及び小学校2年生で実施いたしました。実証授業の結果、授業において問題点となったことを整理し、設定マニュアルを作成することにより、小学校、中学校それぞれにおいて、授業内で端末の電源投入からパスワード設定までを授業の一環として子どもたちが行うことが可能であるとの結論を得ました。この結果につきましては、教育研究所のICT活用部会でも共有し、研究成果とする予定です。続いて、端末の運用に関して様々な検討を加えてきました。やはり、インターネットを取り扱うものである以上、児童生徒が様々な危険と隣り合わせになる可能性を秘めており、その運用に関しては慎重にならざるを得ないところがあります。メールやチャット、カメラミーティングなど、使い方によっては、いじめや差別の温床になりかねません。学習で使うには便利なツールでも、まずは、その使い方のルールを徹底しなければなりません。ただし、あまり制限を設ければ、利便性が悪くなり、使用されない無用の長物になってしまいます。そのあたりのバランスをどう取るかが、一番の論点となりました。今回導入したクロームブックを使用するときに付与されるグーグルの教育用アカウントは、クロームブックだけではなく、家庭の

【③会議結果】

コンピュータやスマートフォンなどからもアクセスが可能となっています。基本としては、グーグルに搭載されている機能については、できる限り制限を加えず、検索やホームページなどインターネットへのアクセスについては、これまでと同様のフィルタリング機能をつけ、クロームブックでも家庭からのアクセスでも、学校から付与されたアカウントを用いた場合は、一定のフィルタリングが働くようにすることとしました。今後は、運用の中で、改善を進めて行ければと考えております。また、端末の取扱いについては、あくまでも児童生徒及び教職員に対する貸与品であるということを前提に、その利用や持ち帰りについては、学校や保護者の管理下で適切に行うことを基本とし、推進チームでの議論をもとに、教育委員会において学習用パソコン端末の学校運用ガイドラインを策定し、各学校に周知を図ったところです。さらに、本格的な運用が開始されることに伴い、家庭への持ち帰りに対するルールについても検討を行い、同じく推進チームでの議論を行っており、これを元に教育委員会において学習用パソコン端末の家庭活用ガイドラインを策定しこちらについても、各学校を通じて家庭への周知を図る予定です。このように、推進チーム内では、端末の使用に当たって課題となる事項について、様々な角度から検討を行い、運用に至っているわけですが、なにぶんにも時間のない中での運用開始のため、今後も推進チーム内での議論をもとにより使いやすい環境づくりに努めてまいりたいと考えております。次に、学校における具体的な活用の状況ですが、先ほど本校の状況でも申し上げたとおり、納品時期により進行度合いが違ってきているところですが、本年度中には、全ての学校で使用開始できる予定です。使用開始に当たっての設定作業については、先ほど申し上げた、下音更小学校における実証授業の結果を踏まえ、各学校の授業の中でパスワード設定の時間を設け、設定を行うこととしています。先行して設定が終了している学校においてはすでに活用が始まっており、後ほど動画でお示しするように、日常の学習の中での利用はもとより、別室登校をしている児童生徒に対して授業動画により学習を共有するなど、各学校で工夫した活用が行われています。また、端末の使用を始めることにより、インターネットやSNSなどが児童生徒のより身近になることから、これらの使用に関してのいわゆる情報モラル教育については、特定の科目に限らず、特別活動や総合的な学習の時間など、様々な機会を通じて行っていかなければならないと考えています。最後に、今後の活用の方向性ですが、令和3年度の教育課程編成に当たっては、新学習指導要領にも謳われている主体的・対話的で深い学びの充実のため、ICTを活用した学習活動の工夫が重点課題となっております。具体的には、一点目、指導のねらいに沿って、単元や題材のどの場面でICTを活用するか検討すること、二点目、一斉学習や協働学習、個別学習においてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図ること、三点目、各教科や総合的な学習の時間、特別活動の年間指導計画に情報モラル教育を位置付け、学校全体で情報モラル教育を推進することが挙げられております。これらの方針をもとに、端末の活用が本格化する次年度以降、各教科において、効果的な活用を図っていくことが必要であり、引き続き前述の推進チームでの検討はもちろんのこと、教育研究所などでの活用に関する研究についても行っていきたいと考えております。コロナ禍による国の予算の前倒しという特殊事情の中で、町長、町議会、教育長、教育委員の皆様はもとより、町の企画財政担当部局をはじめ、教育委員会のご理解と奔走の結果、学校教育におけるICT環境は劇的に進みました。学校現場を預かる者として、感謝申し上げますとともに、与えられた環境の中で今後これを活かしていくという大きな責任を感じております。

【③会議結果】

学校教育でのICTの活用は緒に就いたばかりですが、今後とも関係機関との連携で、子どもたちによりよい教育環境を提供できるよう努力してまいりたいと思います。大変雑ぱくではございますが、学校現場におけるGIGAスクールの取組状況についてのご説明とさせていただきます。本日はこうした説明の場を設けていただきありがとうございました。

(町長)

館田校長、ありがとうございました。ただいま、説明が終わりました。ご質問等ございますか。田中教育長職務代理者。

(田中教育長職務代理者)

実際に講習会をしてみて、先生たちの反応など感じたことがあったら教えていただきたいです。

(町長)

館田校長。

(館田校長)

本校でキックスタートプログラムに参加したのは3名でした。私の事前のアナウンスが良くなかったのか、結構難しい内容になるよというアナウンスをしてしまったところ、先生方は身構えての参加でした。ところが、実際講習会を受けてみて、ものすごく幅が広がるということで大好評でした。昨日行われました全職員を対象とした研修会は、得意でない先生方もキックスタートプログラムに参加した先生に中心になって教えていただいたり、こんなこともできるんだということで大変好評でありました。私が考えつかないような活用の方法なども出てくるのではないかと期待しております。以上です。

(田中教育長職務代理者)

ありがとうございました。

(町長)

他の委員さんからは何かありませんか。石川委員。

(石川委員)

実際に子どもたちに使われた時の感想などはありますか。

(町長)

館田校長。

(館田校長)

本校としては、まだこれからということになっておりますが、実はこの夏に、本町にはクロームブックが入るらしいという情報が入った段階で、本校の職員1名が自前でクロームブックを購入しまして、自前のWi-Fiで学校の中でつないで授業を少ししていくということができました。子どもたちには端末がありませんので、当然のことながらやれることは限られていますが、6年生を中心に使い回しをしながらということだったんですけれども、今までのデスクトップとは違う利便性なども感じていたのではないかと思います。子どもたちにとっても有用ですし、どんどん進化していくんだろうと期待も込めているところでございます。

(石川委員)

ありがとうございます。

(町長)

【③会議結果】

他になければ、暫時休憩といたします。

(動画による説明及びタブレットを活用した模擬授業)

(町長)

休憩を解いて会議を再開します。これから意見交換を行いたいと思います。はじめに、教育長、教育委員の皆さんからご意見などお話をいただければと思います。資料に関する質疑でも構いません。まず、川井委員からお願いします。

(川井委員)

実際使ってみて、すごく面白いなというふうに思いました。不登校のお子さんの自宅でのリモート授業ですとか、登校している子も持ち帰って、その日の授業の復習とかの可能性はどれくらいあるんでしょうか。

(町長)

櫻井学校教育係長。

(学校教育係長)

当然、録画するということが必要になるかと思いますが、授業の様子を録画したりとか、これは本当に将来的な話になると思いますが、先生方からどなたか科目ごとに代表して、授業の録画をあらかじめ作っておいて教材として配布するというようなこともできるのかなど。特に、臨時休校で学校での学習ができない期間が長引いたという時に、そういった授業の様子を録画を動画で出すことによって、学校で勉強をしている雰囲気を使いながら勉強していくというようなことも可能ではないかなというふうに考えております。

(川井委員)

臨時休校期間中に一部の塾でリモート授業があったらしく、そこでかなり子どもたちに差がついたということも聞いているので。あとは、実際学校に通っていてもちょっとわからなかった部分を家へ持ち帰って動画で確認できたら、子どもたちにとっても良いのかなど、保護者としても楽だなと思いました。以上です。

(町長)

ありがとうございます。次に、種川委員をお願いします。

(種川委員)

今、拝見させていただいて、大げさに言えば明治以来の黒板とチョークが劇的に変わってきたなというふうに思いました。先ほど、館田校長もお話があったんですけども、先生方のノウハウをどうやってスキルを高めていくかということがとても大事だと思うんですよ。これを使うと講師になる先生がわざわざ学校に行かなくても、できるんですね。あと、例えばAという学校にいる先生がとっても良い教材を開発したと、それを、B校やC校に広めていく、あるいは逆に他の先生に質問してみるということが、日常的にできるようになればすごく良いなというふうに思うんです。そのためにはやはり通信環境みたいなものの整備が必要になってくるのかなと思うんですけども、現状がどんな状況にあるのか把握はしておりませんが、これを機会に先生方同士のスキルアップ、そしてノウハウの拡大や蓄積が進んでいけば、子どもたちへの教育への質が高まっていくのではないかなというふうに思いますので、そのための

【③会議結果】

基盤整備に力を入れてもらえればなと思いました。以上です。

(町長)

ありがとうございます。次に、石川委員お願いします。

(石川委員)

初めてこういった機器を使ってみる機会ということで、意外とそんなに違和感なくお話できたのかなと実感がありました。あと、動画を見て思ったのは、子どもたちがスッと画面の方に手が伸びていて、タッチして反応しているというのは、すごいなと思いました。これを機会にきっといろんな状況が変わっていくのかな、これを使えるのが標準になっていくのかなというのを感じました。恐らく、子どもたちは活用して、どんどん吸収していくと思いますし、あとは、周りの先生たちが教えるというのがありますので、積極的に勉強していくと思うんですけども、保護者も含めて大人もいますので、そういった人たちも何かしらの形で理解は深めていった方が良いのかなと。手書きを否定するわけではないでしょうし、今このまま紙ベースの教科書も必要だと、改めて見直しもかかると思いますので、大人としては、バランスを取るといいですか、意識していった方が良いのかなという感じがしました。以上です。

(町長)

次に、田中教育長職務代理者お願いします。

(田中教育長職務代理者)

先ほど、種川委員がおっしゃっていた得意な分野で他の学校にも共有する、そこにはその学校の先生がいる、それはすごく良いことだと思うんです。直接リモートで授業をしている先生に質問できなくても、そこにいる自分の学校の先生に聞けるかもしれないですよ。上手な先生の授業を受けることは、良いことだと思います。それと、気にしているのは小学校1年生、2年生のタイピングなんですよ。私は恥ずかしい話、どうしても人差し指でしてしまうんですよ。なので、まず学校で1年生からタイピングをしていくと子どもたちも将来にすごく役立つと思いますので、習慣付けをしていった方が良いと思います。先ほど、不登校気味の子が授業にどんどん参加をしていくことはすごく良いことだと思います。できれば、授業だけじゃなくクラス雰囲気を見せてあげて、給食を食べているところとか、楽しそうにしているところを見せてあげるのも一つの方法かなと思います。それと、南中音更小学校の閉校ということで、地域の人も寂しいと言っています。建物は残っているのですが、年に何回かでも例えば駒場小学校での子どもたちの様子などを動画配信すると地域の人も喜ぶのではないかと思います。以上です。

(町長)

それでは、福地教育長お願いします。

(教育長)

私の方からは、今回のGIGAスクールについては、コロナの影響で当初4年間かけてタブレットを学年ごとに揃えていくということであったんですけども、これが加速化ということで1年で整備するということになりました。学校の先生方も教育委員会の職員も含めて本当に忙しい思いをしながらやっていただいたなということで感謝を申し上げたいと思います。学校の中について、学校訪問に行った時の感想も含めてなんですけれども、案外この4年間でやるはずのものが1年間でやったということで、これからスタートになるんですけども、学校が

【③会議結果】

1つのチームになってやらなければならないものなんだと覚悟を決めてスタートできたという意味では、4年かけてやるよりも1年でやったというのは良い面、プラスで捉えても良いのではないかと考えております。本町は、有能で意欲のある先生方が非常に多いというのが強みかなということに感謝しているんですけども、推進チームももちろんですけども、このコロナで比較的臨時休業だったりして、子どもたちがいない間から新年度に向けての校内研修なんかもかなり進めていただいていたということもありますので、そういった先生方を中心とした動きには、本当に感謝したいなというふうに考えております。それと、クラウド方式ということで、先ほどからお話がありましたけれども、教材などについては、今までは毎年毎年先生方が残業して作っていた状況がありますけれども、こういったものがデジタル化、電子化されることによって、1つのフォルダに教材として誰かが作成したものをに入れておく、それをみんなで共有して使えるということになりますので、これが年数を重ねていくうちに、学校に残って作らなくても、それぞれの教材がデジタル化されたものがあるという中で、働き方改革につながっていけば良いなというふうに考えております。数年かけて人事異動で先生方が異動するたびに、それぞれの学校にあるものを持っていても良いと思うんですね。お互い先生方が異動する時に、前の学校で使っていたデジタル教材を持って異動すれば、十勝管内で優秀な教材がみんな融合して、かなりレベルが上がっていくと。先生方のスキルに関わらず、教材が統一化というか、高いレベルに上がっていくのではないかなと、長期的には期待をしたいと思います。今後ですけども、こういったタブレットを使っていく中で、小学校低学年においては、スペルもわからない、キーボードの操作もわからないということが出てくると思いますので、GIGAスクールというものを考えた時に、少人数できめ細かに、一歩踏み込んでいくということがあっても良いのかなというふうにも感じました。それから、これまでの授業というものが、このGIGAスクールによってすべて否定するものではないという中で、学習だけではなくて、学校による集団活動といったもので、多様性を認め合うということもしっかり教えていく必要があるというのが、これまで以上に大切になるのかなと。こういったデジタルの世界というのはどうしてもイチかゼロの世界なので、合ってる、間違っている、〇×で判断されてしまうんですね。その中間というものの捉え方が苦手な分野ですから、そういった意味では、余計先生方もこの子はとても進んでいるぞとわかったり、こういったことに興味があるぞというふうに捉えることはできると思うんです。でも、なぜ進んでいるのか、つまづいているのかというのは、きちんと人対人で、これまで以上にコミュニケーションを取りながら、単純に目で見える成績だけで判断しないということを余計に先生方には求められてくるのかなという気がしていました。あとは、館田校長もお話しされましたけれども、まだ始めたばかりなので、本当にやりながら色んなところを改善して進めていただくといいなということが大事なのかなと。教育委員会もできる限りそういったことも一緒にしていきたいというふうな思いでおります。以上でございます。

(町長)

ありがとうございました。他に何かありませんか。田中教育長職務代理者。

(田中教育長職務代理者)

GIGAスクール構想が令和5年までに整備ということだったんですけども、音更町はこういふふうになる前からすごく考えていましたよね。コロナの影響で前倒しになりましたけれ

【③会議結果】

ども、音更というのは先見の明があったということで、実現できたというのは本当に喜んでいきます。そういうことを行政が受けとめてきてたということなんですよ。それが本当に嬉しく思います。ですから、今回は、結局国の予算で上手く前倒ししてできましたけれど、まちづくりは人づくりと言いますが、私の感覚から言わせてもらおうと、今自分なりに頑張れたというのは環境のおかげなんです。なので、まちづくりは人づくりと言いますが、実は人づくりは環境なんじゃないかと。ですから、今回の様にハードの面でも行政が理解してくれてすごい話に乗ってくれると良い人も作れると思いますので、町長に感謝の気持ちもありますけれど、そういう思いであります。

(町長)

ありがとうございます。他にありませんか。なければ、皆さん方からお話いただいた感想等を含めて、私のほうから若干お話をさせていただきたいなと思います。今日皆さん方からお話があってGIGAスクール構想といったものが、現実的に今日体験したんですけど、川井委員からのお話もあったように、こういうものを恐れるのではなく、現況を捉えて、体験をしていく中で面白さを感じたというお話があったり、教育はこうでなくちゃいけないと私も思いました。その中でも、おっしゃっていただいた様に不登校っていうふうに言われがちなんですけれども、そういうふうな言葉を使わないようになってきて、その人たちがどう勉強できるかっていう環境が、このことによって今音更で取り組まれているというのを見せていただいて感謝しています。ありがたいなと思っています。

また、特に川井委員のお話に関連して、櫻井係長からもお話がありましたけれども、不登校のみならず、授業の録画といったものを取り入れながら、今回はコロナのおかげと言ながらも、気象災害もあるだろうし、学校環境が著しく何か起きて休校となった時の対応も、これはすばらしいものだと言っていました。この早期に教育委員会の皆さんを含め、教育に携わる人たちがいち早く、まだこういう環境にない中でGIGAスクールという目線を持ったということが、これが遅れていたらリモート授業を受けられる学校と、そうでない学校環境にあるのとの差が起きえる、それはあってはならないと、それはそのとおりだと思って聞いておりました。そういったことを含めて、早期に取り組むことができているということは、感謝したいと思います。また、明治以来の劇的な変化を活かすことによって先生方のスキル、ノウハウ、優れた取組をしている先生方を紹介できるとともに、先生方のスキルアップと合わせて、そういうものが共有できるというのがわかったんだから、そのためにこれから町にとっては基盤整備をしていくことに期待しますという言葉がありました。我々も確かにそうだなと、得た道具で満足しなきゃいけないと気を付けなくてはならないなと思いました。

石川委員からお話のあった学校というのは地域社会、保護者あつてのものだという中で、学校環境が大きく変わるというのは、保護者の皆さん方がどれだけついていけるか、この対応もまさにPTAという組織もあるので、今音更での教育現場が進化しているということに対する対応というのが改めて求められると思いました。

それから、田中教育長職務代理者や種川委員からお話があったように優れた先生の授業が学べるということには、先生方に対しても良い環境になっていくのではないかと。昔は学校を異動して初めて変わっていたこともリモートでできたり、優れた人材の授業を皆で学べる、合わせてタイピングをこれから学んでいかななくてはならないということも含めてそういった教育も

【③会議結果】

付随してやっていけば良いのかなと思いました。それと、地域への情報発信ができるのではないかというお話がありました。あらゆる点で今後の夢として、そういったことも可能性があるなと思いました。

また、教育長からは町全体を代表してお話いただきました。本当に皆様方の努力によりまして去年の今時期、GIGAスクール構想ということで渡辺企画財政部長が今日来てますけれども、膨大な夢を持ちながら予算に上げた時に、一番に重鎮の議員さんが質問してこられて、当時の教育委員会の皆さんが目的をしっかり持たれ、企画財政部長含め、その計画は執行すべきということで議会で堂々とお答えをしたというのが今も懐かしく感じます。これも、そういう目標を打ち立ててくれたからこそ前倒しといいながら、結果としてだらだらするよりも良かったという教育長からお話があったように、一步踏み込めたことは良かったなと思います。また、教材としてこのデジタル化によってあらゆるものが共有されるような、財産としてあらゆるところに持っていけるような、高い値が出てくる時代にも入るなど。あとは、このことによってうちの町で打ち出している少人数学級、35人以下学級というのが、うちの町で12月の定例議会で出ていたんですが、少人数学級というのはコロナがあるのではなくて、教育環境をどう整えていくかということでは、課題であると。低学年から少人数学級という環境を整えていくのも必要になってくるのかなと。あとは、最近多様性ということが言われるんだけど、いかなる環境で生活をされていても教育は皆等しいという中では、教育長のお話があったように、学校も目で見ただけの判断だけでなく、子どもたちを新しい目線で見えてあげれる時代に入ってくるのかなというふうに思いました。そういった中で、田中教育長職務代理者から先見性がある、人づくりは環境が大事であるというお話がありました。これは、お褒めいただきましたけれど、私自身もこの仕事を4年間させていただいて思ったことは、うちの町にはそういった歴史があるんですね。目立たない町ってよく言われていたんですけど、今までの中でもそういうのが学校教育の中でもあるんですね。教育委員会の皆さんが結果として1年で前倒してGIGAスクールができたというのは、1年前はすごいことを考えるなど、渡辺部長や私たちが査定の時に、これは一大事だなと思うから、将来を動かす時にこういう提案がなされるということで、遅れちゃいけないと。こういうものは遅れてはだめだと、そういう渡辺部長なんかの考え方も理解してくれて、ただ出したら議会では当然興味を持つ、一大構想だから。そういったものでは田中教育長職務代理者がおっしゃってくれたように先見性を持ちながらというのは音更町の教育委員会含めて歴史的な土壌があるなということで、これはお互いにこういった場で互いに認め合いながら更にその環境、基盤を作るべきだというご提案をいただいたと。先生方のスキルアップというのは当然起きてくると思います。それに対応できるような我々も教育基盤の整備をしっかりとやっていくと改めて教えられたなと思いました。共有するだけではなくて、活かしていきたいなと思いました。私からは以上です。あと、渡辺部長から何か一言お願いします。

(企画財政部長)

おっしゃっているとおり、コロナの影響で前倒した事業が多々あるんです。その中で農村部の光ケーブルが今まで町の最大の課題だったんですけども、NTTが事業主体ということで、本町すべての農村部でいけるということになりましたので、さっき言ったコロナの関係で今までの課題が相当前に進んだというのは事実でありまして、それに対して国からの補助も手厚く、去年、定額給付金に40億出ていて、それ以外に20億の事業をしているんですけど、

【③会議結果】

町が実質負担したのは2億6千万円くらいです。そういった意味で、財源的にも恵まれたこともありました。G I G Aスクールもこの中に入っています。今後もうまく活用して基盤整備を含めて町民の皆様の環境を作っていきたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

(町長)

新しい時代を進む上で、本当にためになる、適切な助言をいただきながら総合会議ができたなと思います。全体で何かなければ、協議案第1号ということで協議を終了させていただきたいと思います。

(教育部長)

それでは、以上をもちまして、令和2年度第1回音更町総合教育会議を閉会いたします。本日は大変お疲れさまでした。

閉会（15時20分）